令和８年１０月３０日発行

令和８年度　　# １１月　幼稚園だより　　墨田区立緑幼稚園

年少と年長のかかわりを大切に

園長　河原　宏子

後期始業式に、一年の残り半分が始まることや次の学年へ向かう様々な準備が始まることを子供たちに話しました。そのことを一人一人が受け止め、意欲をもって毎日を過ごしていることが感じられます。

10 月 10 日に行われた運動会にも、その気持ちが表れていたと思います。一人一人の輝きが、見ている者たちに感動を与えてくれました。子供たちの成長が、運動会を通して大きな成果として表れたことを嬉しく思います。

運動会へのアンケートを頂きましたので、紹介いたします。

・「年少かけっこ・チャレンジ」は、障害物にもチャレンジして見ごたえがあり、また、一人一人の成長をよく見られた。
・「年長お宝ダッシュ」は、チームで協力して周りの子の様子を見て考えて動いていたのを見て成長を感じた。
・「年長リレー」は、最後まで諦めず頑張る姿に成長を感じた。
・「年少年長合同リレーごっこ」は、年少・年長の垣根を超えた一体感があり、みんなで楽しみながら力を合わせる素敵な時間だった。少人数ならではの温かさを感じた。年少なので勝ち負けがなくてよかった。走るのを楽しんでいてよかった。
・表現「みどりの冒険物語」は、日頃の仲の良さと頑張り屋さんのすみれさんの良さがよく出ていた。
・「なげてなげて」は、数を数えるところも 10 のまとまりをつくることですぐわかるように工夫されていて良かった。玉入れだと高さがあって入れるのが難しいので、相手コートに入れる競技はとても良かった。２回戦目で高さを変えるのも変化があってよかった。

今後も、今の一人一人の子供たちと向き合いながら、最善と思える活動を展開してまいります。

さて、緑幼稚園では、縦割り保育である異年齢での活動をいろいろと行っています。

年長は、上学年として、年少児を遊びに招待したり一緒に活動を進めたりすることにより、自分が少し我慢しても年少児の思いをくみ取って、楽しい思いをさせてあげようという、優しい思いが育ってきます。この『自分は少し我慢して』という思いがもてるようになるのは、社会の一員として生活するうえで大切なことです。

今の子供たちには、ドラえもんのポケットではありませんが、シックスポケットがあると言われています。「欲しいものは買ってあげるよ」「困ったことは助けてあげるよ」というやさしい親や祖父母の方々の援助です。

こんなに慈しまれて大変幸せな話ですが、一歩間違えると、物欲の激しい子やわがままな子に育ってしまう危険性もあります。いつも言うことが通ったり、助けてもらったりするばかりではなく、時には、不十分なことがあったり、要求が通らなかったりする事態の中に身を置く経験も必要です。幼稚園での「ちょっとの我慢」の経験は、大人にすれば些細なことですが、まだ５・６歳の年長児の子供たちにとっては、なかなか難しい課題です。しかし、その行為をうれしいと受け止めてくれる年少組がいますので、自然と『我慢』の心が育っていきます。そして、年少児の「年長になったら」というあこがれと期待感につながっていきます。

日々の小さな異年齢とのかかわり一つ一つが、子供たちにとっては大きな意味があります。後半に向けて、さらに異年齢とのかかわりを展開してまいります。

＜年少ゆり組＞
・自分の思いを言葉や動きで伝えたり、相手の言動を意識したりしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。
・学級のみんなでする活動の中で、自分なりにイメージをもったり、考えたり工夫したりする楽しさを感じる。

＜年長すみれ組＞
・共通の目的に向けて自分なりにイメージを広げ、友達と考えを伝え合ったり、相談したりしながら活動を進める喜びややり遂げた満足感を味わう。
・自分の目標に向かって繰り返し取り組んだり、友達と一緒に思い切り体を動かしたりする楽しさを味わう。

園だよりや幼稚園での最近の様子をホームページにて配信しています。ご覧ください。

緑幼稚園 HP
QR コード